特　集

（公社）愛知県獣医師会のモルモットホスティングのこころみ

杉本　寿彦

はじめに

愛知県獣医師会では 2005 年より，学校飼育動物に対する支援事業として飼育相談，「学校獣医師制度」による病気の治療の支援，学校に出向いて学校で飼育されている動物を使って行う出前授業「学校動物ふれ合い教室」，そして 2017 年には学校飼育の手引書「わかる！学校飼育動物ハンドブック」を出版するなど，様々な事業を行ってきました．

しかし，昨今の教員の働き方改革による先生方の勤務形態の変化や，英語教育やプログラミング教育など，カリキュラムの多様化により先生方に余裕がなくなり，学校で動物を適正に飼育することが，今まで以上に困難になってきたように感じます．

実際に愛知県でも動物の飼育，特に鳥類やほ乳類の飼育をやめる学校が増えてきました．そこで私達は，学校での動物飼育を困難にさせている問題点を次のように整理してみました．

①飼育に係わる時間
②長期休暇中の世話
③飼育に係わる予算
④アレルギーなど子供の安全に関わる問題
⑤動物が病気になったときの対処
⑥教育現場における動物飼育による教育的効果への疑問

休み時間にモルモットとのふれ合い

これらの飼育を困難にしている問題が取り除かれればどのくらいの学校が動物の飼育をしてみたいと思えるのか，また先生方は動物を飼育する事が子供たちにとって良い効果があると考えているのか等を知りたいと思い，飼育に係わる学校の負担を私達が考えられる限り取り除いた「モルモットのホスティング」を 2020 年から始めることにしました．

そのため，モデル校事業では無く，愛知県下のすべての小学校に案内をしました．

モルモットのお世話・お掃除

1　モルモットホスティング事業の概要

モルモットのホスティング事業のルールを以下のように整理しました．

①本会会員の中から，ホスティングに使用するモルモットを「自分のモルモット」として終生飼育してくれる獣医師を募る．ホスティングに使用されるモルモットに関しては，ホスティングから引退するまでの期間は餌等，飼育に係わるすべての費用は本会が負担する．
②学校へのホスティングにはモルモット，飼育ケージ・保温設備・餌（チモシー・モルモットフード）等を本会が学校に提供し費用を全額負担する．
③モルモットの飼育場所は教室内，あるいは共用の廊下など常に子供たちの目が届くところにとする．屋外・飼育小屋での飼育は不可．
④ホスティングの期間は最低１ヶ月，最長１年とする．ただし，学校がホスティング後，継続的して学校の動物として飼育を希望する場合は，飼育器材と共にモルモットを贈呈する．この場合は，それ以降のえさ代等の費用は学校の負担とするが，健康管理

及び疾病の治療については本会がバックアップする.

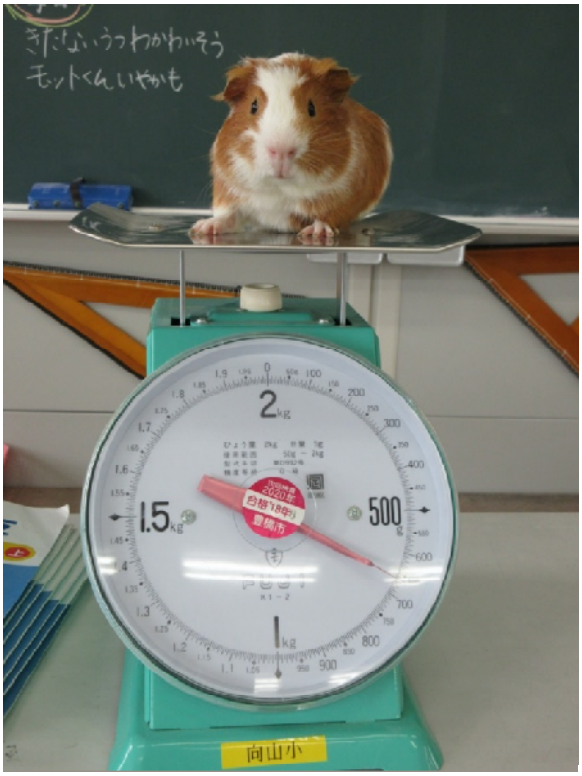
⑤長期休暇中はモルモットを所有する獣医師の元で管理する. ただし, 土・日の休みは学校で管理する.

⑥ホスティングの導入の際は獣医師が子供たちに対して飼育の仕方などの授業を行う.

⑦いかなる事故, 疾病等でモルモットが負傷または死亡しても一切, 学校の責任を問わない. ただし, モルモットに異常が生じた際は速やかに獣医師に連絡をする. 治療費はすべて本会が負担する.

⑧ホスティングの期間中でも, 児童のアレルギー等, 飼育の継続が不可能な事態が生じた場合は, 本会が速やかにモルモットを引き取る.

⑨ホスティング事業は３年間の期限付き事業とし, 事業終了後にその効果を判定し継続するかどうかを検討する.



モルモットの健康管理

２　モルモットのホスティングの実施

2020 年度の開始に向けて 2019 年に準備を始め, ５頭のモルモットを購入し, ４名の獣医師の元で飼育を開始しました.

モルモットは獣医師の元で最低３ヶ月間の健康観察をした上でホスティングに提供されます.

当初 2020 年４月からの開始を予定していましたが, 新型コロナのパンデミックが始まり, 学校も休校になるなどとてもホスティング事業を開始できる状態ではありませんでした.

しかし２学期からは様子を見ながら開始することが出来, 本格的な開始は 2021 年度からとし, 終了も１年延ばして 2024 年としました. 結果として 2020 年度 5 校, 2021 年度８校, 2022 年度 16 校の申込がありました. その間にホスティング用のモルモットを獣医師の元で繁殖し, 現在 11 頭のモルモットが７名の獣医師により飼育されていいます.

３　“愛知県方式“のモルモットホスティングのこだわり

本会が目指したのは, 業者などによる「レンタル動物」とは一線を画し, 今までの学校の動物と同じように子供たちが「私達のモルモット」として飼育し, また従来の飼育小屋での飼育以上に身近で愛着を持って飼育出来るようにすることでした. そして教師, 学校にも負担が少なく, 先生方も子供と一緒に笑顔で動物の飼育を楽しんでもらうことを一番の目的としました.

大切なのはたとえばレンタル飼育のように, 長期休暇後に帰ってきたモルモットが, 休暇前にいた子とは別のモルモットとだったというようなことの無いように, 「モルモット」を単に貸し出すのではなく, みんなの教室で飼育している「モップちゃん」「ココちゃん」をホスティングすることなのだと考えました.

そのためにはホスティングに供するモルモットは名前をつけられて, それぞれが大切に飼われていることが必要でした. また, 子供たちが自分たちで名前をつけたいだろうと思い, 各モルモットは「名字」として「スギモトちゃん」「ヨシナガちゃん」などと飼育している獣医師の名前をつけ (もちろん病院では呼び名がありますが), 学校では子供たちがそれぞれ下の名前をつけて呼んでもらっています.

その結果ホスティングを終了した学校が次年度再度ホスティングを希望した場合に, 「モルモットを」ではなく「〇〇ちゃんを貸

してください」と指名されるようにもなりました.

４　ホスティングの終了後

ホスティングを終了した学校の子供たちから「今〇〇ちゃんは，どこにいるの」などの質問をされることがあると聞き,本会のHPに「モルモット通信」のページを作成しました.ここにはそれぞれのモルモットの性格や,今どこにいるのか,ホスティング中の学校での様子などを掲載し,いつでも子供たちが見られるようにしました.

これには学校から「更新が遅い」と獣医師会事務局に苦情が入ったそうですが,自分たちが育てたモルモットの様子を楽しみにしてくれている人がいることが嬉しくなりました.

５　これまでの感想

本来,学校飼育動物はいつでも身近にいてふれあう事の出来る,体調のよいときも悪いときもお世話をする,そしてだんだんと年老いてゆく時も一緒にいて学校で終生大切に飼育されることが理想的です.

しかし,いま学校では手間のかかる動物飼育に時間を割く事が難しくなり,理想的な飼育が出来ている学校が少なくなっています.そして動物愛護･福祉の考え方もここ数年で大きく変わり,学校で動物を飼育することは「動物虐待」であると非難される場合もあります.

本来，子供たちの，思いやりの心を育て，また楽しいはずの学校飼育が「虐待」と言われるのは心の痛むことでした.

それならば，獣医師が見守り，適切な飼育を行えるように指導し,飼育の楽しさや動物のいとおしさと共に,お世話の大変さも体験出来るホスティングは,一つの代替案として有用では無いかと思いました.

ホスティング終了後にもらった「お礼のお手紙」を見ても，今までのふれ合い教室などのものと比べ，生き生きとした自分の感情，言葉で書かれているのが見て取れました.最短の１ヶ月という短い期間での飼育は，どうなのかな？でも学校に受け入れてもらいやすくするにはこの方が良いだろう，と決めた事でしたが,それでも子供たちにとっては出逢いの喜びと別れの寂しさという鮮烈な体験になったのかなと思いました.

６　ホスティングの課題と今後の展望

(1) ホスティングの可能な規模

本会ではふれ合い教室の最盛期には 100 校を超える学校から希望があり，7～80 校に対しふれ合い教室を行ってきました.しかし獣医師の飼育しているモルモットをホスティングする今の方式では対応できる学校の数に限界があります.

(2) モルモットのリタイヤ

この事業を継続する場合,モルモットをホスティングに使用できるのは3歳～5歳だと考えます.リタイヤ後のモルモットは引き続き各病院で飼われますが,病院で飼育出来るモルモットの数にも限界があり,新たにモルモットを飼育してくれる病院を探す必要があります.

(3) 費用の問題

現在,本会が公益事業としてほぼすべての費用を負担していますが,継続事業となった場合はえさ代等一部の費用は学校の負担で御願いすることになる可能性があります.

おわりに

ホスティングには上記のような課題もありますが，従来型の飼育が難しい場合，学校飼育の一つの形態としてホスティング形式の学校飼育は選択肢の一つだと思われます.ただ，似て非なる安易な「レンタル飼育」の流行に繋がらないように注意しなければならないと考えます.

今後，愛知県獣医師会は，継続事業にできるよう,子供たちの教育的効果について検証していきたいと考えています.

（愛知県獣医師会副会長）

※愛知県獣医師会 HP　モルモット通信
https://aichi-vet.or.jp/business-details/school/Guineapig-communication.html